

利用者の工賃アップが課題となっている福祉事業所と、慢性的な人手不足が課題の農業者をマッチングする「農福連携」が目的。利用者が刈り払い機や管理機の操作ができるようになることで請け負う作業の幅が広がり、よりマッチングしやすくなる。

この日は2事業所から9人が参加し、JA営農経済部農業機械課の職員5人が講師を務めた。請負ニーズが高い作業で使う主な農機は刈り払い機や管理機、スパイダーモア。それらの基本的な使い

農福連携推進さらに 実習交えJA職員が講義



方や注意点を資料を基
て丁寧に講義した。
に説明し、実習を交え
障害者福祉サービ

福祉事業所向け農機研修
支援センターなど

長野県上伊那農業農村支援センターと伊那保健福祉事務所は10月中旬、伊那市にあるJ・A上伊那の協同会社(株)J・A菜園で、福祉事業向け農業機械技術研修会

を開いた。JA管内では初の取り組み。JA職員が講師を務め、事業所の職員と利用者に農機の使い方や注意点を説明、実習もした。

多機能型事業所「伊那ゆいまゐる」で、農福連携係を務める山中但春さんは「農福連携を進めるには、職員が農業に通じていることが大事。これからも積極的に学びたい。地域農業へ貢献するとともに利用者の工賃アップも目指し、ワインウインの関係を築きたい」と話す。

支援センター「農業農村振興課農業振興係の松嶋晴香技師は「関係各所と連携し、農業者と事業所がうまくマッチングできるように活動を進めたい」と語った。

同事業所はすでに、JA菜園からの依頼でジュース用トマトの収穫や、リンゴの苗木誘引といった作業をしている。

（長野・上伊那）

JA職員の指導を受けて管理機を操縦する山中さん（長野県伊那市）

体験型農園で
コスモス摘み
JAかながわ西湘
【神奈川・西湘】
Aかながわ西湘は10
中旬、小田原市の准
合員向け体験型農
「きんじろう農園
で、コスモスの摘み
りや菜の花の種まき
行った。イベントは
年目で、准組合員や
産物直売所「朝ドラ
アミヤ」の買い物



コスモスを摘み取る参
(神奈川県)



は約12町の借り、花を栽
作物を栽培
全しながら
添え、道
ましてい
組みはJ
買献活動
て実施。
フンティ
して、ヒ
モス、菜
まきから
を体験す
この口
れたコ
の摘み取
は、直
買い物客
組が参加
内から
子は「年
どりの花
しみな
業支援
てうれ
次回も
たい」と

GGAP農場育ちのブドウ「シャイン」 マレーシア輸出へ

茨城県立
真壁高校

茨城県立真壁高校は、桜川市にあるグローバルGAP（農業生産工程管理）の認証を取得した稲荷原農場で生徒が栽培したブドウ「シャインマスカット」のマレーシアへの輸出に乗り出した。

同校は本年度、県営業戦略部農産物輸出促進チームと連携し、国際感覚豊かな農業経営力を培うため、マレーシアに「シャインマスカット」を輸出する計画を進めてきた。

稲荷原農場では10月26日、農業科と農業・環境緑地科の生徒



稲荷原農場で育てた輸出用の「シャインマスカット」の箱詰め作業に取り組んだ生徒ら（茨城県桜川市で）

7人が、社会科講師の佐藤弘樹さんから輸出に必要な「特別原産地証明書」の作成方法やマレーシアの歴史などの説明を受け、調製室で収穫したブドウの箱詰め作業に取り組んだ。

ブドウは約3.7畠の圃場（ほじょう）で栽培され、今年は「シャインマスカット」の他、皮ごと食べられるブドウ「雄宝」など約160kgを生産した。

輸出形態は、1房約800錠に調製され化粧箱に納められた「シャインマスカット」や500錠入りと200錠入りパックの3種類で、約80房（合計64*_ロ）を出荷した。

手塩にかけた「シャインマスカット」は、マレーシアのリゾート地ペナンの果実専門店に届けられ、11月初旬に店頭に並ぶ予定だ。(い)ばらき)

直売所開店へ
出荷者説明会

「群馬・JAたのふじ
みつけもん」

群馬 たのふじ

J A たのふじは10月下旬、11月にオープンするJ A グリーン農産物直売所「みっけもん」の出荷者説明会を藤岡市のJ A 本店で開いた。生産者約150人が参加した。

新直売所は、新鮮・安全・安心な地場産農畜産物の販売を通じ、

「ど根性ビオラ」最盛

山梨県鳴沢村
仕上がり上々

【山梨・鳴沢村】J
A鳴沢村管内で「ど根
性」が「出荷最盛
期を迎えている。鳴沢
村は標高約1000米
の高原地域。冷涼な気
候を生かし、寒くなる
のが早い富士山麓の自
然条件の下で育つため
寒さに強く、春の花咲



ビオラの株を確認する渡辺さん
(山梨県鳴沢村で)

きがよい。株が締まつて根張りがよく、花壇に根が付くのが早い特徴を持つ。

J A花壇苗部会長の
渡辺一夫さん(73)は
7月下旬に播種(はし
ゆ)、8月中旬に鉢上

げたビオラ約1万3
000株を生育し、市

出荷者に説明する栗原課
長代理（群馬県藤岡市
で）

24日にオープンを控えている。

J.A. 當農經済部店舖課の栗原晃課長代理が、売り場コンセプトや出荷基準、販売手数料などを説明。出荷を求める農産物は約12の品目に及び、積極的な出荷のための付付けを呼びかけた。

また、金融共済部共済課の担当者が生産・加工・販売した生産物に関する賠償責任保障の加入を勧めた。

店舗課の新井巳紀生課長は「地域農業の振興と担い手育成による

食の安定供給を確保し、生産者の所得向上と滑らかな流通の運営を目指す」と話した。

加工品出荷者
弁当や総菜業者
JA千葉み
「じょいかで
【千葉みらい】
千葉みらい農産物
所「じょいかで」
10月下旬、JA東
店で加工品出荷者
会を開いた。「食
ビストロPree
e」のシェフ、田

場やJ Aが運営する。良い株をきつ状態で出荷する。心がけ、数量を増やす大切に育てる。年々リピーターが増えていく。

渡辺さんによろ
丈夫な株を作るに
差しが大切。今年
が数回降りたが、
丈夫でがっちりし
全体的に例年通な
上がりになってい
渡辺さんは「この
旬から10月上旬
て雨が続いて管理
変だったが、肥料
の加減、ポットの
ーシングに気を付
良い状態で出荷を
られた」と話した。